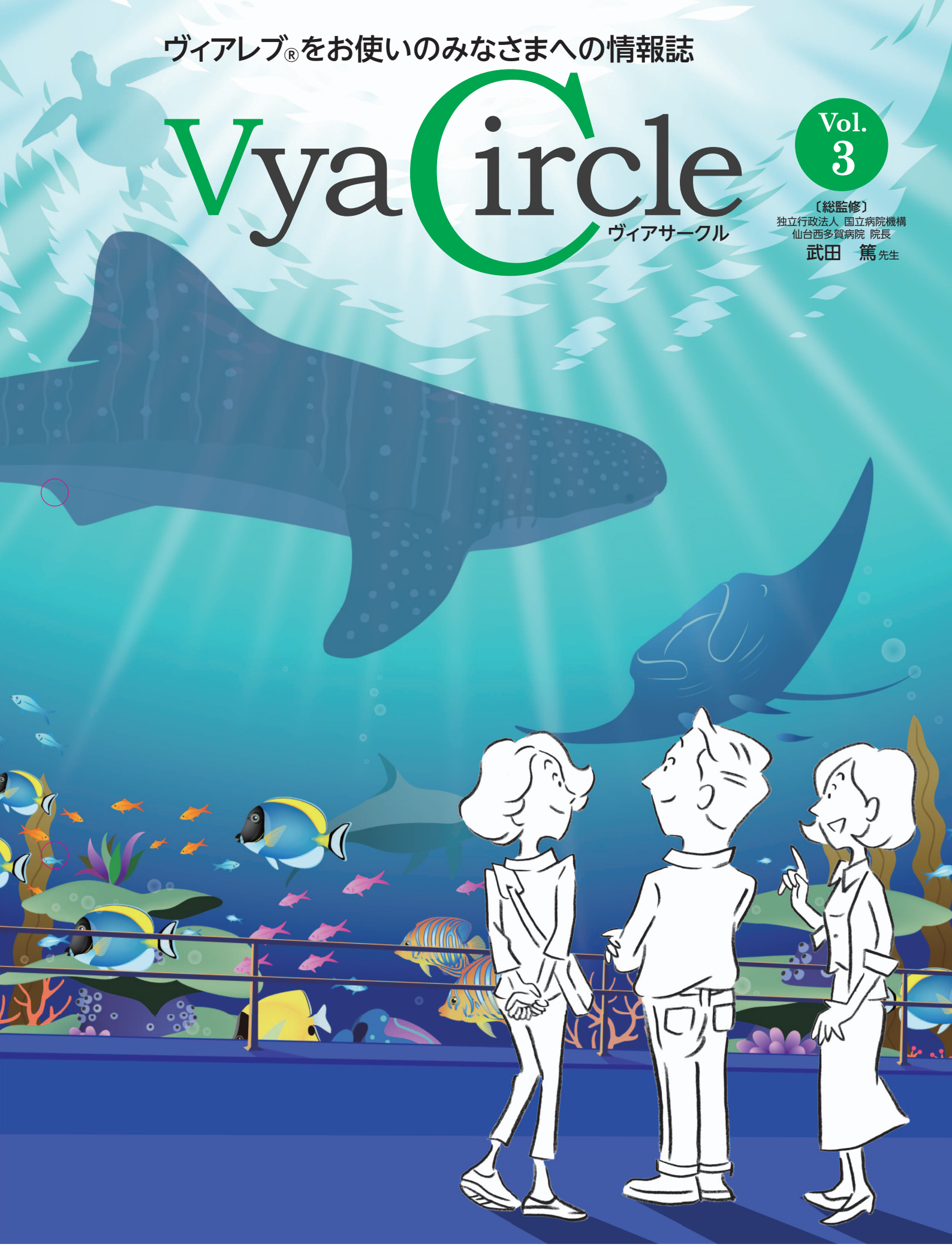
ヴィアレブ®をお使いのみなさまへの情報誌

Vya Circle

ヴィアサークル

Vol. 3

〔総監修〕
独立行政法人 国立病院機構
仙台西多賀病院 院長
武田 篤 先生



abbvie

機器のことをよく知ろう!…知っているのと知らないのでは大違い

（よくある質問にお答えします!）

ヴィアレブ治療は、輸液ポンプと皮膚に留置するカニューレ（細くて柔らかい管）、それにつなげるチューブやシリンジなどいくつかの医療器具の組み合わせで治療が成り立っています。毎日使ううちに操作に慣れてきても、「あれ?何かおかしいな」と思う時があったり、ポンプのアラームが鳴ると、「もしかしたらポンプが故障した?」と不安になったりするかもしれません。そんな時、必ずしも原因はポンプとは限らず、カニューレやチューブ、電池、または操作方法や手順が原因の場合もあります。器具それぞれのしくみや構造を知っておくと、原因を想定しやすく、落ち着いて対応できることが多くなります。

今回のヴィアサークルでは、患者さんから受けた質問の中で特に知っておいていただきたいポイントを2つピックアップし解説いたします。まず比較的多いご質問は、電池交換時に画面が真っ暗になってしまったり、エラーの画面が出たりするケースです。次に多い質問は、突然閉塞アラームが鳴り、あわててポンプやチューブの状態を確認したものの、「閉塞の気配はないのにどうしてだろう?」となるケースです。コールセンターへ相談されてご存じの方もいらっしゃると思いますが、「あ、そうだったのか!」と気づきになり、それが問題解決につながればとても嬉しく思います。

また、機器だけでなく、操作方法や手順も重要なポイントです。たとえ治療に慣れてきても、操作方法や手順は決して自己流にはせず、正しく行うことが安全性の上でとても大切です。充実した資料があっても、事前に知識があったとしても、不安があればひとりで悩まずコールセンターも頼りながら、安心して治療を続けていただきたいと思います。コールセンターのスタッフは、私たち医療従事者と同様に患者さんとご家族にとって心強い味方です。

最後に、お手持ちのポンプは病院から貸し出されている大切な医療機器ですので大事に扱ってください。

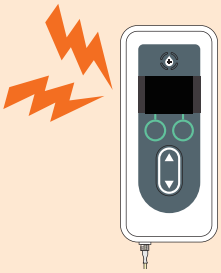
使用しなくなった場合は、すみやかに病院に返却いただきますようお願いします。

本誌を通じて、みなさんやご家族の方の歩みを少しでも支えることができたら嬉しいです。

医療法人セレス　さっぽろ神経内科病院
看護部長　澤本　枝里 さん

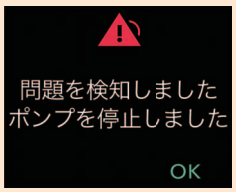
Q 電池交換時に、画面が真っ黒、またはエラーが表示されてしまいました

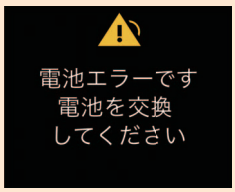
ポンプは精密機器です。電池を交換した際に、画面が真っ黒のままで動かなかったり、何らかのエラー表示が出てアラームが鳴ったりする場合は、電気の流れに障害が生じている可能性がありますが、対処方法を知って落ち着いて対応しましょう。



●再起動が必要になる画面：

電池を入れたのに画面が
真っ黒で反応しない

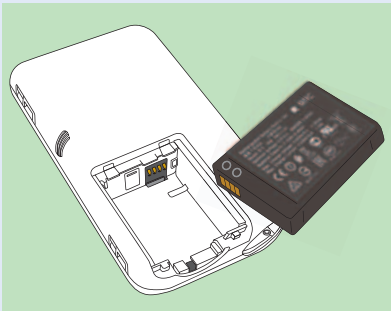




対処方法

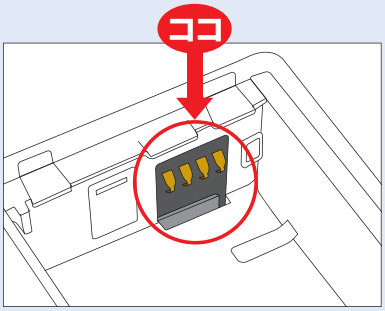
① 電池を外し10分おいてから再起動する

ポンプの中には電気をためる部品（コンデンサー）が内蔵されています。電池の交換時に、ポンプ内に溜まった電気によりポンプが反応しない場合があります。このようなケースは、溜まった電気を抜く（放電する）必要がありますので、一旦ポンプから電池を取り外して10分程度おいて、その後フル充電した電池を入れなおし再起動します。



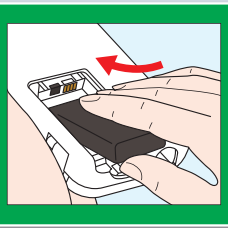
② 金属端子に異常がないか確認する

ポンプの電池収納部分には、4つの金属端子の突起があります。この金属端子に変形や潰れ、ほこりなどがあると、電池との接触不良を起こしてエラーになる場合があります。
ほこりがあれば、綿棒でやさしく取り除いてから再起動します。
金属端子が変形していてエラーを繰り返す場合には、ポンプを交換する必要がありますので、コールセンターにご連絡ください。一緒に確認をさせていただきます。



● 金属端子を傷めない正しい電池の入れ方

電池をセットする際は必ずスライドさせながら入れます。スライドさせずに電池を真上から無理に押し込むと金属端子が変形して接触不良を起こす可能性がありますのでご注意ください。

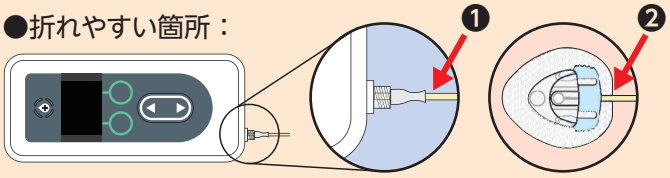


Q 閉塞アラームが鳴ってしまいました

ポンプは間歇的に（一定の間隔を空けて）シリンジの押し子を押してお薬を注入します。
閉塞アラームが鳴る主な原因は、ポンプがお薬を押し出すタイミングでチューブに折れがあると、一時的にお薬の流れが遮断され、閉塞として感知するためです。この時、ポンプは閉塞アラームを鳴らして停止します。
閉塞アラームに驚いて、チューブの状態を確認したときにはチューブの一時的な折れは解消しているかもしれません。そのため「どうして閉塞アラームが鳴ったのだろう?ポンプが故障してるのかしら?」と思われるかもしれませんが、ポンプは正常に動作して閉塞を感知しているのです。

チューブが折れやすい箇所は、チューブ両端の主に2か所です。
❶シリンジに接続する部分のつなぎめ
❷サイトコネクタとのつなぎめ

●折れやすい箇所：

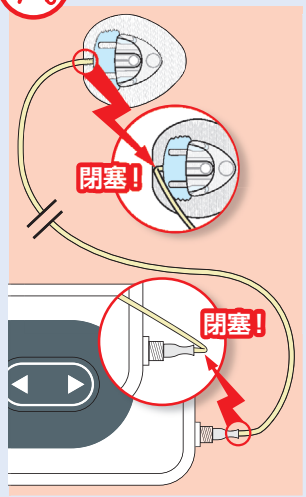


チューブの折れを防ぐ工夫

① カニューレとポンプの向きを工夫する

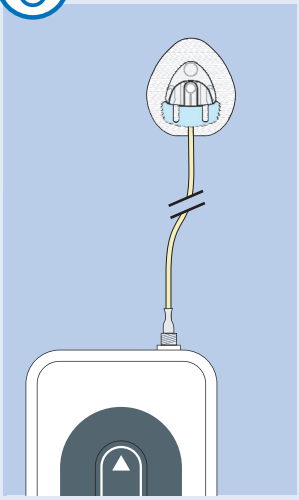
チューブ両端の一方、もしくは両方が強く引っ張られた時に、上記イラストのチューブのつなぎ目部分❶❷が鋭角に曲がるとチューブの内腔が折れて閉塞アラームを引き起こす原因になります。
チューブの折れを防ぐためには、チューブが強く引っ張られないような向きでカニューレを留置し、ポンプも固定位置と向きを工夫します。
閉塞アラームを繰り返す場合には、チューブが強く引っ張られたために、チューブの内径が細くなって閉塞しやすくなっている可能性がありますので、新しいチューブに交換してください。

折れやすい向き（例）



チューブの両端もしくは一方が遠ざかる向きにあると折れやすい

折れにくい向き（例）

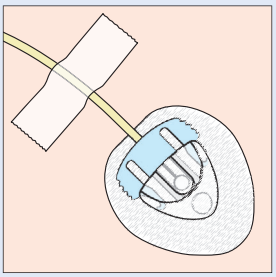


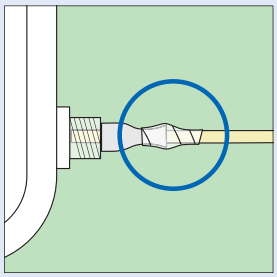
チューブの両端ができるだけ互いに近づく向きにすると折れにくい

② チューブを補強する

カニューレ側は、皮膚にサージカルテープなどでチューブを固定します。
またポンプ側は、チューブのつなぎめの段差部分にテープを巻いて補強します。

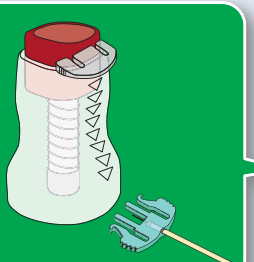
＊余分なチューブをだらんとさせておくとドアノブ等に引っ掛けてチューブが引っ張られたり、カニューレが外れたりする原因になります。また短すぎると容易に引っ張られて閉塞アラームの原因になることもあります。
そのため、余分なチューブは少し余裕をもたせた状態で丸めて固定しておくと良いでしょう。


皮膚にチューブを固定


チューブの段差にテープを巻いて補強

● カニューレ留置時の注意点

インサーションデバイスの向きに気をつけて！
インサーションデバイスのボディ横に縦に表示されている三角印▶▶▶がサイトコネクタを接続する向きになりますので、この印ができるだけポンプ側を向くように留置します。



ちょっと一息

● ポンプのセルフテストについて ～ポンプにとって実は大事な時間です～

電池をセットして電源が入ると「お待ちください○○○○」の画面が表示されます。
日によって待ち時間が違うので、時にはいつもより長いと感じることがあるかもしれません。
この待ち時間中に、ポンプは様々なプログラムが正常に機能するかどうか確認作業（セルフテスト）を行っています。精密機器のポンプにとっては、とても大事な時間ですので、焦らないで、セルフテストが完了して画面が切り替わるのをお待ちください。もし「お待ちください」の画面のとき、電池を外してしまうと、ポンプにエラーがでてしまうことがありますのでご注意ください。
もし問題が解決しない場合は、コールセンターにお問い合わせください。

ヴィアレブ コールセンター

フリーダイヤル
0120-062-510
受付時間：24時間365日〈通話無料〉

わからないことがあればいつでもお電話ください。お待ちしています。

患者さんや介護者の方々からのお電話をお受けしています。

製造販売元
アッヴィ合同会社
2025年9月作成
JP-VYAL-250122-1.0

abbvie